

うま
塵い

掌の形をした緑の葉が
ひらひらと揺れている

その枝葉のすき間から
垣間見える部屋の内

どこかの屋根では歌いさざめいている
小鳥の眼に映じた曇きを

そのみだれ動く天井をとおして
水琴窟の底から見上げる空

地の遥か奥底から次第次第に
近づきつつある時刻

暑熱に濁る大気を冷やすに足りぬ微風
それでも^{うま}塵いを誘うには十分すぎる

(2004.7.19)